

ご注意事項

フィルム施工によるガラス熱割れについて……………

ガラスにフィルムを施工するとガラスの熱吸収率が上がるためにガラスの熱割れが発生する場合があります。フィルム施工ご検討時に当社もしくは当社の施工・販売特約店にお問い合わせください。

熱割れとは……………

窓ガラスに日射が当たった場合、ガラス中央部は日射の熱を吸収して膨張する一方で、ガラス端部はサッシに入っているため日射が当たらず低温のまま膨張しません。したがってガラス端部に発生する引張応力(発生熱応力)が、ガラス端部の強度を超えるとガラスが破壊されます。

この現象を一般に「熱割れ」と呼んでいます。

弊社ではフィルムを施工した場合の発生熱応力を計算で推定する熱割れ計算を行っておりますが、当計算に関しては施工の可能性の有無だけで、絶対的な判断はできない場合もありますので、参考資料としてお考えください。原則として保証は致しておりません。

フィルム施工後の水残り現象について……………

施工液を用いて施工した場合、フィルムとガラスの間の水分を完全に除去することができない為、施工終了後、フィルムとガラスの間に残った僅かな水が集まって水泡になったり、白く曇ったりする現象が見られる場合があります。これらは水分の蒸発と共に見えなくなりますが、ガラスまわりの環境が水分の蒸発に影響を与える場合(太陽が当たらない、気温が低い、湿度が高い等)は水が抜ける期間が長くなる場合があります。

窓ガラスに外貼りする場合のご注意……………

ウインドウフィルムを窓ガラスに施工する場合、窓ガラスの室内側に施工する場合(内貼り施工)と室外側に施工する場合(外貼り施工)があり、ウインドウフィルムには内貼り施工のみ可能な内貼り用フィルムと外貼り施工も可能な外貼り用フィルムがあります。内貼り用フィルムを外貼り施工することはできません。

常時開けている窓ガラスやドアガラスのほか、ベランダの板ガラスなど、直射日光が当たっていても窓ガラス両面が屋外に晒される場合は外貼り用フィルムを施工して下さい。

スパンドレル部への施工について……………

スパンドレル部(腰部)は熱がこもりやすいため通常より劣化が早く進み、外観等に不具合が発生する場合がありますので、スパンドレル部への施工にあたっては、事前に当社へお問い合わせください。

虹彩現象について……………

太陽や蛍光灯など照明の光の当たり具合によって、フィルム表面に虹色の模様が見える場合があります。また WIN70、WIN50、WIN35 では虹色の模様とは別に曇りがかって見える場合があります。いずれもフィルムの構造上発生する光の干渉作用によるものでフィルムの異常によるものではありませんので、あらかじめご了承ください。CLM-2HC は、虹彩現象が見えにくい虹彩現象対策商品です。

施工後のメンテナンスについて……………

- 清掃は柔らかい綿布もしくはガラス清掃用ゴムスキージーを用いて、水又は中性洗剤を少量混ぜた水（0.1%程度）をスプレーしてから行い、から拭きは決してしないでください。その際、スキージーのゴムパッド以外の固い部分が窓ガラスに当たらないように注意してください。
- ブラシや研磨剤（研磨剤を含むスポンジ等）はフィルムを傷つける原因となるので使用しないでください。
- 中性洗剤以外で、アルカリ性のガラスクリーナーや有機溶剤などはフィルム劣化の原因となる場合がありますので使用しないでください。
- フィルム面への貼り紙、広告用テープ類の貼付はしないでください。そのまま放置しますと日射の熱がこもってガラスが割れたり（熱割れ）、テープを剥がす際にフィルムが剥がれたりする恐れがあります。
- 1枚のガラスに複数のフィルムを継いで施工している場合は、フィルムの継ぎ目に沿って拭いてください。
- 外貼り施工されたフィルムの清掃は、フィルム表面に付着している砂ほこり等をあらかじめ水などで十分に洗い流し、ゴムスキージーや柔らかい布で清掃してください。

内貼り用フィルムについて……………

カタログに外貼り表記が無いものに関しては、全て内貼り専用になっております。

ご不明な点がございましたら、当社もしくは当社の施工・販売特約店にお問い合わせください